

1. 人口ビジョンの位置づけ

資料 1

我が国の人口は、2008年（平成20年）をピークに減少に転じ、2053年（令和35年）頃には1億人を切ると予測されています。

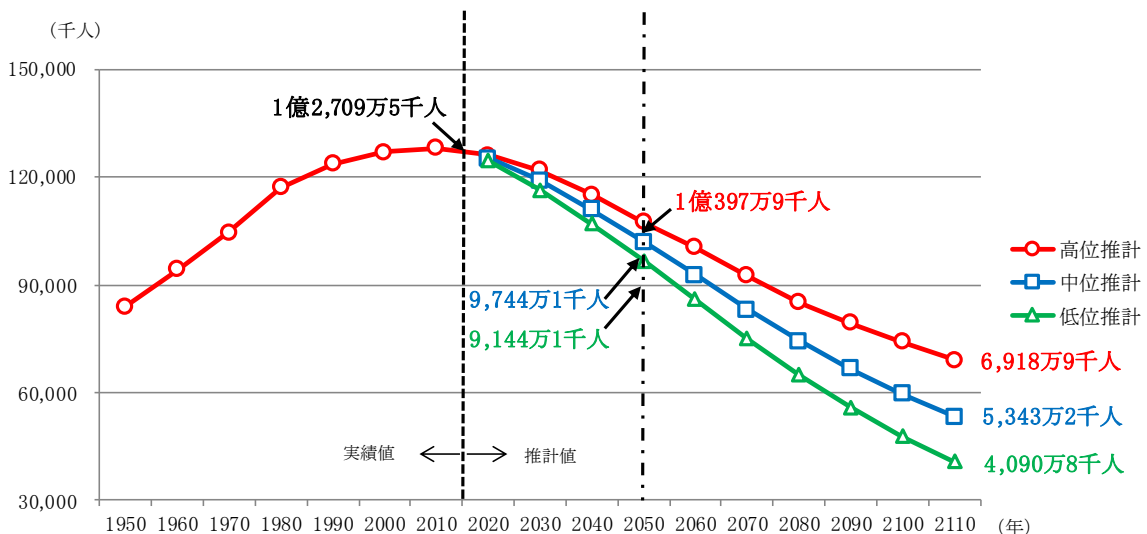
さらに、人口減少ばかりでなく、人口構造も大きく変化しています。未婚化、晩婚化等による出生数の減少と、平均寿命の延伸による高齢者の増加により、世界でも類を見ない速さで少子高齢化が進行しています。こうした背景により、我が国の人口動態統計概要による2018年（平成30年）の出生数は92万1千人となっており、約50年後には、出生数は現在の半分となることを見込まれています。

また、65歳以上の高齢者については、2018年（平成30年）の高齢化率は28.1%で、4人に1人が65歳以上となっていますが、その後高齢化は急速に進み、約50年後には、38.4%で、2.6人に1人が65歳以上になると見込まれています。

急激な人口減少・少子高齢社会が進行するなか、国においては、2014年（平成26年）に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「長期ビジョン」）が策定されましたが、令和元年12月に改定され、新たな長期的展望等が示されました。

朝倉市では、2010年（平成22年）国勢調査及び2013年（平成25年）日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の結果を基として2015年（平成27年）に人口ビジョンを策定しましたが、その後公表された2015年（平成27年）国勢調査の結果が推計値を1,000人以上下回り、大きな乖離があったため見直す（時点修正）こととしました。今回改めて策定する「朝倉市人口ビジョン」は、長期ビジョンを勘案し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

■我が国の人口の推移と長期的な見通し■



(注)高位推計:出生率高位・死亡率低位 中位推計:出生率中位・死亡率中位 低位推計:出生率低位・死亡率高位

(資料)「日本の将来推計人口(平成29年推計)」国立社会保障・人口問題研究所